

知床世界自然遺産を活用したE S Dの取り組み

羅臼町立春松中学校 校長 奥村 繁義

担当者：谷村 靖志

1. 本校のE S Dの特徴

本校は、知床世界自然遺産の中に位置している。知床は、海から陸へとつながる特異な生態系と、希少な動植物の生息地となっていることが高く評価され、日本では初めて海洋を含む自然遺産である。

「知床学」「キャリア教育」を中心にして、ふるさと羅臼町魅力や良さを再発見し、未来を担う人材を育成することを目指している。

2. ユネスコスクールとしての活動・全体計画

	活 動	活 動 内 容	時数
1 年	知床学 野外体験活動 クマ学習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが生まれ育った羅臼の豊かな自然を体験することで、その魅力・尊さを再認識し、自ら進んでその自然を守っていこうとする心で。 3年次における他管内への発信の準備段階として、羅臼の商業や産業について知る。 	27
	キャリア教育 職業調べ	地域の職業について調べ、その事についてまとめ発表する。	14
2 年	知床学 野外体験	<ul style="list-style-type: none"> 知床半島のもう一つの中心地、ウトロでの自然体験活動を通し、その魅力や尊さを再認識し、自ら進んでその自然を守っていこうとする心を育てる。 	35
	キャリア教育 職業体験活動 生態系学習	<ul style="list-style-type: none"> 地域での職業体験を通して、地域の職業と実情を知り、地域を愛する心を育てるとともに、社会性や自主性を身に付ける。 働くことの意義や価値、自己の適正について考え、自分の今後の生き方の参考にする。 	24
3 年	知床学 クマ学習Ⅱ 羅臼町PR活動	<ul style="list-style-type: none"> PR活動を通し、羅臼の魅力について考え、自らの郷土を大切にしたい気持ちを養う。 羅臼に生きる人間としてその魅力を他の地域の人々に発信し、ふるさとの活性化につなげる。 	29
	キャリア教育 上級学校訪問	<ul style="list-style-type: none"> 実際に上級学校訪問を通して、自らの進路を考える。 	30

3. 特徴的な活動事例

(1) クマ学習Ⅰ（1年）・・・より迫真的遭遇時シミュレーション

知床財団の方を講師に招き授業を実施している。

通学路はヒグマやエゾシカの通り道と何本も交差しており、これまで多くの遭遇事例があった。中学生に向けた安全教育は重要で、部活動帰り、友人との野遊び、小さな子を連れている時の遭遇などより現実に近い様々なケースを設定したシミュレーションを実施している。



また、生物に対する基礎的知識も充実しつつあるので、ヒグマの感覚や繁殖生理、行動の特性、消化機能などについて専門的な立場から伝えている。

(2) クマ学習Ⅱ（3年）・・・ヒグマ調査の体験や共存を意識した対応策

知床財団の方を講師に招き授業を実施している。

日常的にクマとかかわっている専門家と交流し、ヒグマについての調査研究に触れることは、中学生にとって貴重な社会的体験でもある。安全教育の面で、ヒグマ生息地域内で野営する場合に不可欠な電気柵を張る実習なども採り入れ、ヒグマと共存するための具体的な方法を学ぶ機会としている。



(3) 生態系学習（2年）

毎年、ルサ川に入り、水生生物の観察を行っている。本年度は、雨天だったため、ルサフィールドハウスにて、知床の野生生物の学習を行っている。

知床の自然は、海から陸へとつながる特異な生態系にあり、希少な動植物の生息地であることを体験を通して学習している。



(4) 羅臼町PR活動

修学旅行中、札幌駅構内において羅臼町PR活動を行っている。その際、羅臼漁協や町内の企業からいただいた試供品とともに、自分達で作成した羅臼町PRパンフレットを配布している。



4. 本年度の成果と課題

クマ学習は、一貫教育として系統的に知床財団の方から直接授業を受けることで生徒の興味・関心を高めている。クマ学習については、知床財団の方にすべてを頼り切っているが、その内容や関わりについて再検討する時期に来ている。